

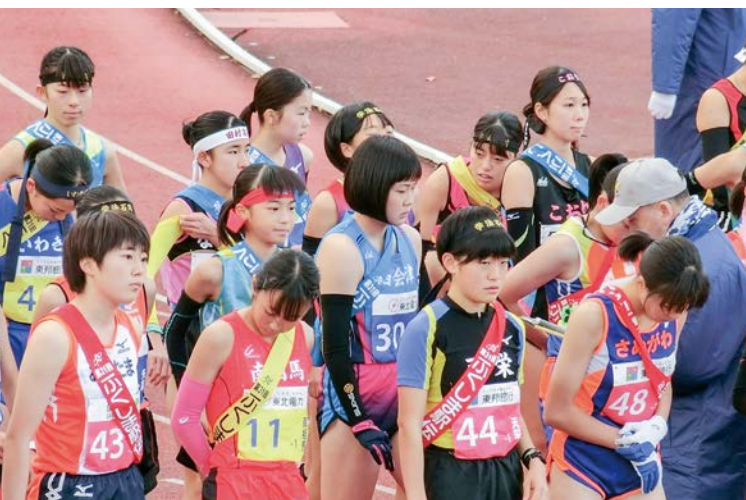


エース区間と言われる最長の10区(9・3キ)で追い抜きを見せる佐藤茂哉選手(左・区間12位)

中学生のエース区間8区で残り200メートルを切り、櫛を握り力走する高野駿選手



2区の伊藤大河選手から櫛を受け取り、走り出す三留拓真選手(右・矢吹町役場中継所)



▲ スタート前にゼッケンのチェックを受ける須藤帆南選手(中央ゼッケン番号30・1区)



走り、つなぎ

力発揮

3年ぶり敢闘賞

白河市の白河カタルスポーツパークをスタートし、福島市の県庁までの94・8キ、16区間を1本の櫛でつなぐ第31回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会「ふくしま駅伝」が11月17日に開催され、出場した西会津町チームは3年ぶりとなる「敢闘賞」を受賞するなど大健闘しました。

コースの変更に伴い、昨年よりも200メートル短くなった第31回ふくしま駅伝には、町村混合チーム「希望ふくしま」を含め、昨年同様、県内59市町村から53チームが出場しました。

大会前には、台風19号や記録的大雨によりコースの一部が冠水するといった被害が出たため、開催が危ぶまれましたが、各チームのランナーは復旧に力を尽くす人々に心を寄せながら、最後まで力走を見せました。

県庁ゴールまで残り250メートルのスパイク。力を振り絞る大場悠選手(左・区間17位)



目標に向かい

これまで町ふくしま駅伝実行委員会では、今年から監督を務める佐藤悦美さんを中心に、猛暑が続いた7月から週3回、さゆり公園で練習を重ねてきました。

今大会は、町としては第2回大会からの連続で30回目の出場となる「30」、ゼッケン番号の「30」、総合順位「30」位、そして「3」年ぶりの敢闘賞の受賞に向けた『30・30・30』をチーム目標に掲げました。

そして、9月からは、北京オリンピックマラソン日本代表の佐藤敦之選手などを指導し育てた、会津陸上競技協会顧問の越尾咲男さんを特別支援コーチに迎え、より高度な練習を行ってききました。

また、近隣市町村で行われるマラソン大会への出場や、本番前の試走も複数回行うなど、大会当日に向けて心身の調整を図ってきました。

つないだランナーたち [敬称略]

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1区 須藤 帆南
(ザベリオ高3年) | 16区 大場 悠
(西会津町役場) |
| 2区 伊藤 大河
(会津高1年) | 15区 江川 愛彩美
(西会津中2年) |
| 3区 三留 拓真
(西会津中3年) | 14区 横山 翔大
(西会津高1年) |
| 4区 伊藤 亜久里
(会津工業高3年) | 13区 渡部 貴之
(自衛隊神町) |
| 5区 佐藤 京太
(喜多方桐蔭高3年) | 12区 長澤 勝也
(西会津消防署) |
| 6区 齋藤 寛之
(自衛隊多賀城) | 11区 猪俣 美咲
(西会津中3年) |
| 7区 鈴木 俊哲
(会津学鳳中3年) | 10区 佐藤 茂哉
(武蔵野学院大3年) |
| 8区 高野 駿
(西会津中2年) | 9区 橋谷 真緒
(西会津中1年) |



西中図書館 新刊オススメ本



『毎日読みたい
365日の広告コピー』
[WRITES PUBLISHING 著]
ライツ社

広告コピーとは、ある商品や企業の魅力を伝えるために考えられたものです。しかしその中には、ただ消費を促すだけの言葉ではなく、私たちの人生に気付きや希望を与えてくれる言葉がたくさんあります。忙しい日々の中に、大切なことを思い出せる時間が少しでも増えるかもしれません。

ここで、本の中の「1月1日」のページに載っている広告コピーを1つ紹介します。
『ふだんを変える それがいちばん 人生を変える』



『星と龍』
[葉室 麟 著]
朝日新聞出版

『緋色のマドンナ
陶芸家・神山清子物語』
[那須田 淳 著]
ポプラ社



『社員15倍！
見学者300倍！踊る町工場』
[能作 克治 著]
ダイヤモンド社

『手抜きでもピカピカ！ mai ママ式
時短そうじの最強レシピ』

[mai 著]
宝島社



町民ギャラリー 手芸友の会

今月は、
向 キヨ子 さん（8町内）の作品です

作品名

- ◎コート（写真上段右）
- ◎十二支のつるし飾り（上段中）
- ◎バッグ、巾着、ポーチ（上段左）
- ◎ブラウス（下段右）
- ◎ベスト（下段左）



作品作りを振り返って

今は着ることのない思い出のある着物を利用してつるし飾り、洋服、バッグ、小物、アクセサリなどを作っています。自分の手で作ったものは愛着があり、飾っても、身に着けてもうれしいものです。私は外出するとき、着て、持って、着けて、出掛けています。

今は手芸友の会の中で、共通の趣味を持つ仲間と一緒にカギ針でプルオーバーを編んでいます。

出来上がりが楽しみ…。



INTERVIEW



佐藤 悦美さん

さとう・えつみ [出ヶ原]
今大会初めて、ふくしま駅伝の町チームの監督を務め、チームを支えた

まずは、選手、そして練習を支えてくれたスタッフや家族関係者全員が一丸となり目標を達成することができました。指導いただいた越尾咲男さんをはじめ皆さんに感謝します。練習を重ねるうちに、中高生や大学生の成長を感じ、そこに力のある社会人が加わり、目標は決して高いハードルではないと思っていました。選手一人一人のレベルアップがチーム全体の競技力の底上げになりました。大会前に体調を崩した選手もいて、自衛隊員の2人は台風19号の災害派遣で満足に練習ができないなど、決してチームがベストコンディションとはいえませんでした。一人一人が任された区間を走り抜いてくれました。

一人一人がレベルアップし強くなった関係者の皆さんに感謝したい

監督車で移動しながら順位を確認するたび、選手の走り感激し目頭が熱くなりました。また襷をつなぐ使命と走り抜く責任を果たした選手たちの姿に感動しました。開会式後、選手には「ここまでできたら町の代表として楽しく走ろう、みんなが実力を発揮して区間を完走すれば目標は必ず達成できるはず」と話しました。特に初出場の選手は緊張したと思いますが、過去最高の総合30位、町の部12位とこれまでの記録を更新し、さらにこれまで練習でスタートにより実現できなかった6区まで襷をつなぐことができました。若い選手を中心に、全員が本当に頑張ってくれました。皆さんに感謝します。

来年も走りたい 橋谷田 真緒さん 西会津中1年

今回初めて、町チームに加わり出場しました。当日走ることで、緊張しましたが、9区の3区を走り、しっかり10区の佐藤茂哉さんに襷をつなげることができました。自分なりにいいタイムで走り切れたと思います。

また、ねらっていた30位と、敢闘賞

を取ることができて良かったです。来年も走りたいと考えています。

もっと上の順位を目指して練習に取り組む、もし出場することになったら万全の状態で走れるよう走り込みたいと思います。とてもいい経験になりました。応援ありがとうございました。



チーム一丸、心ひとつにタイム縮める

天候に恵まれた大会当日は、昨年に引き続き1区を任された須藤帆南選手が女子エース区間を37位と、安定した好スタートを切り、続く2区は、今年高校に入学し、他の大会などの参加により疲れが残る中でも成長が著しい伊藤大河選手が区間27位の力走で3区へとつなぎました。

3区の三留拓真選手は区間21位と総合順位を6つ上げ、4区のキャプテン伊藤重久選手から同級生同士の襷渡しとなった5区の佐藤京太選手は区間28位の力走で総合順位を26位まで押し上げました。その後、7区の鈴木俊哲選手、8区の高野駿選手、9区の橋谷田真緒選手の中学生が目標を上回る走りを見せ、最長のエース区間10区を走る佐藤茂哉選手が箱根駅伝予選会の疲れが残る中でも区間12位と町チームを引っ張りました。後半は、14区の横山翔大選手が区間22位、15区の江川愛彩美選手が区間21位の好走で

選手たちは、町から駆け付けた応援団の声援に奮起し、昨年より全体で6分35秒も大きくタイムを縮めることができました。昨年や一昨年よりも順位を上げ、今年は目標とした「30位」と「3年」ぶりの敢闘賞をつかみ取り、選手一人一人が自らの力の向上を確認した大会となりました。

◀ 初出場の橋谷田真緒選手（左・9区）

